

東秩父村和紙の里バスターミナル



2014年にユネスコ無形文化遺産登録された、約1300年の歴史を持つ細川紙。その拠点となる埼玉県秩父郡東秩父村にて、地域住民及び観光客の拠点となる「東秩父村和紙の里」のリニューアル及び、地域交通ネットワークの再構築による同施設でのハブ化に伴い、路線バスの結節点となるバスターミナルの設計を求められた。

施設にアクセスする前面道路沿いに建つバスターミナルは、来訪者に対するアイキャッチの役目を果たすため、和紙漉きの道具「簀桁」を積み重ねたような外観を意識して設計している。構造材に桧、外壁の仕上げに杉板、待合室の内装材の一部に和紙を用い、そのすべてを村産材とすることで、村民に親しみを持ってもらえるような建物になるように素材を選定した。その結果、温もりのある木製のバスターミナルとすることができた。

また四周すべての場所に大型バスが停車し、かつバスから降りる際に雨に濡れないことが求められたため、柱8本で構成した大きな構造柱をつくり、その柱4本で屋根を支える構成とした。さらにその柱の中を堅樋とし雨のみちをつくり、地面へと浸透させている。

今回設計したバスターミナルの他、農産物直売所、村のインフォメーションセンター等、リニューアルした各施設で地場産の材料を多用しており、施設全体を観光の拠点としている。観光と交通との連携を高めることで、村全体の賑わいや活性化を創出できる場所となった。

